

## 4. 子育ての状況と育児意識

### 4-1. 育児に関する意見

#### 4-1-1. 『子育ては辛いことより楽しいことの方が多はずだ』に対する意見(Q9-⑤)

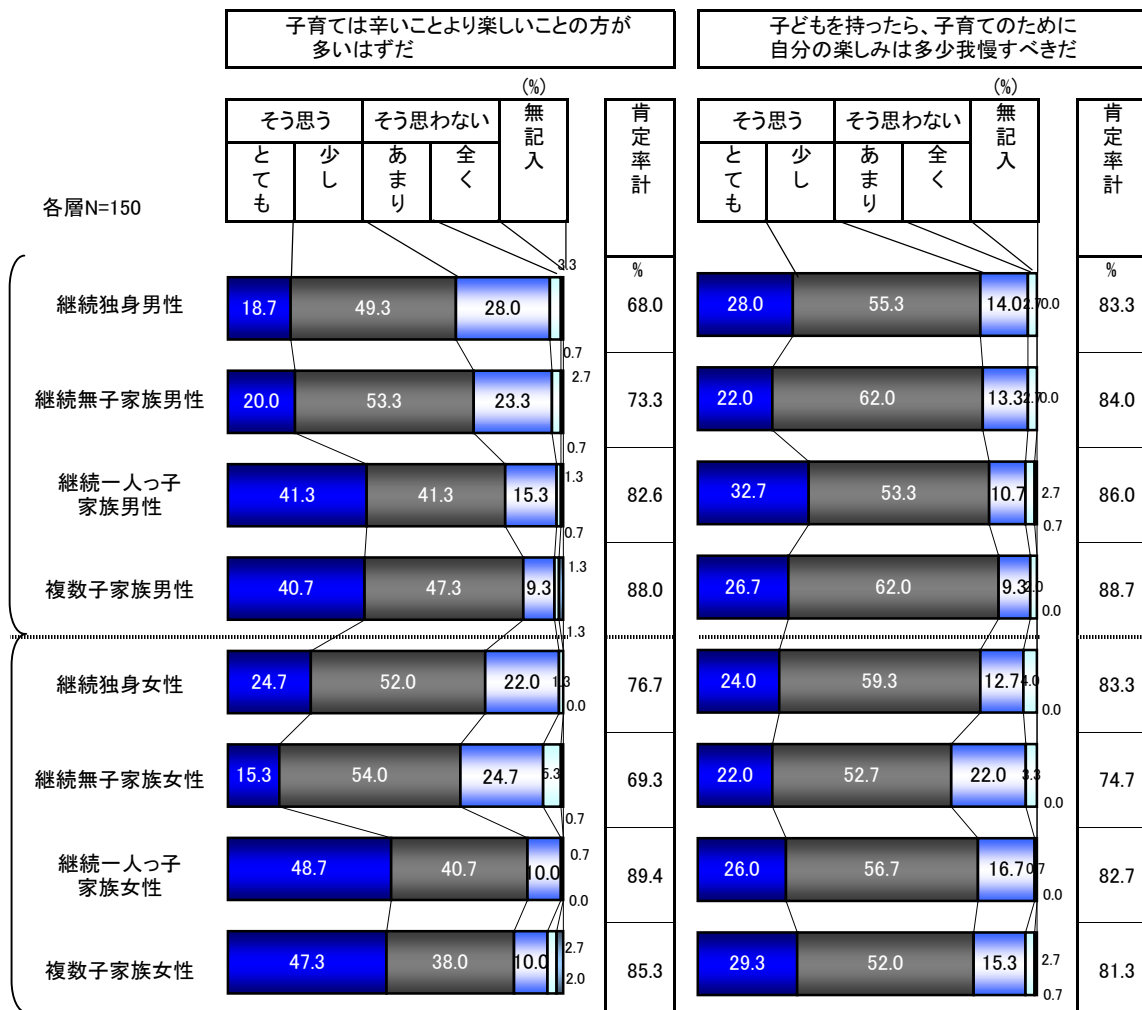
子どものいるグループの肯定率が目立って高い。子どものいないグループも多くが肯定しているが、積極的肯定率には顕著な差がある。

【継続無子家族】の女性の場合、「とてもそう思う」と答えた人は15.3%に過ぎず、【継続一人っ子家族】、【複数子家族】の女性グループの1/3にとどまっている。

#### 4-1-2. 『子どもを持ったら、子育てのために自分の楽しみは多少我慢すべきだ』に対する意見(Q9-⑥)

どのグループも大半が肯定しているが、【継続無子家族】の積極的肯定率は他グループに比べ男女とも若干低い。

図表4-1-1. 育児に関する意見(単数回答)(基数:全体)

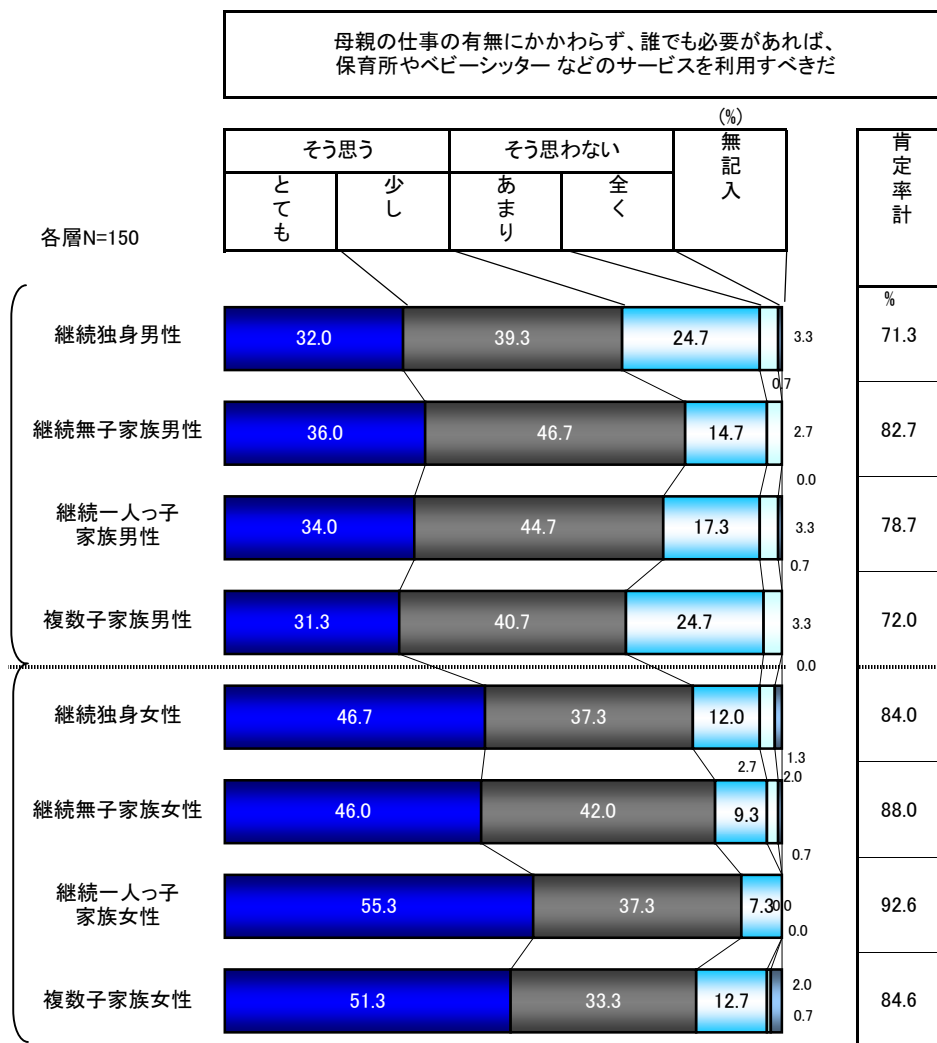


### 4-1-3. 『母親の仕事の有無にかかわらず、誰でも必要があれば』

#### 保育所やベビーシッターなどのサービスを利用すべきだ』に対する意見(Q9-⑩)

男性ではどのグループも大半が肯定しているが、積極的に肯定する人は3割前後に留まる。  
女性では、5割前後が積極的に肯定し、特に子どものいるグループで積極的肯定率が高い。

図表4-1-2. 育児に関する意見(単数回答)(基数:全体)



#### 4-2. 子どもに身につけて欲しいこと(Q19)

どのグループでも「他人を思いやる心」「礼儀正しさ、公共心」を挙げていることに変わりはない。強いて特徴を挙げるとすれば、「生きる力」は【継続一人っ子家族】で、「自分の意見を言える表現力」は子ありグループで身につけて欲しいと考える人が多いことである。

図表4-2. 子どもに身につけてほしいこと(回答3つまで)(基数:全体)

(%)

	男性				女性			
	継続 独身 男性	家 族 統 男 無 性 子	家 族 統 男 一 人 っ 子	複 数 子 家 族 男 性	継続 独 身 女 性	家 族 統 女 無 性 子	家 族 統 女 一 人 っ 子	複 数 子 家 族 女 性
各グループN=150								
他人のことを思いやる心	51.3	51.3	49.3	60.0	72.0	68.0	66.7	66.0
礼儀正しさ、人に迷惑をかけない公共心	47.3	44.7	48.0	48.7	42.7	50.0	48.7	56.7
知識・教養	32.7	25.3	36.7	32.7	28.0	22.0	26.0	32.7
生きる力	16.7	16.0	30.7	28.7	28.0	30.7	37.3	34.7
責任感	20.0	28.7	20.0	24.7	22.0	20.7	20.7	14.7
自分の意見を言える表現力	18.7	16.7	22.0	20.7	15.3	8.7	24.7	27.3
協調性	12.7	12.7	12.0	12.7	10.7	18.7	8.0	8.0
創造性	12.0	14.7	20.7	16.0	12.0	7.3	4.7	11.3
精神力	9.3	12.0	10.0	12.0	12.7	20.7	12.0	12.0
公正さ・正義感	16.0	18.0	16.7	12.0	10.7	9.3	7.3	3.3
実行力	11.3	9.3	4.7	9.3	11.3	4.7	8.7	12.0
ユーモアのセンス	6.7	7.3	5.3	6.7	8.0	5.3	4.7	2.7
国際性	3.3	6.7	4.0	4.0	8.0	4.0	3.3	5.3
独立心	7.3	10.0	5.3	4.7	4.0	4.7	8.0	3.3
目上の人を敬う精神	2.7	4.7	6.0	4.0	3.3	3.3	1.3	0.7
先祖を敬う精神	8.0	4.7	1.3	3.3	2.7	2.7	5.3	3.3
愛国心	1.3	1.3	1.3	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
その他	2.0	1.3	2.7	0.0	0.7	2.0	1.3	2.0
特にない	2.0	2.0	0.0	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0

### 4-3. 子どもに関する不安(Q20)

【継続独身】や【継続無子家族】の子どものいないグループでは「健康・病気」「怪我や事故」「いじめ問題」「犯罪に巻き込まれる」の他に「犯罪を犯す」「自立心がない」「定職につかない」などにも不安を感じており、子ども本人に起因するものについての不安が子どものいるグループより強い。

図表4-3. 子どもに関する不安(複数回答)(基数:全体)

各グループ N=150	(%)														
	健康面や病気	怪我や事故	いじめ問題	犯罪に巻き込まれる	犯罪を犯す・非行に走る	勉強・成績・受験	自立心がない・依存心が高い	親・教師・社会に対する反抗	定職につかない・定職につけない	引きこもり	不登校	親子の対話の少なさ	結婚できそうにない	その他	特に不安・心配はない
継続独身男性	68.7	38.7	34.7	32.0	35.3	18.0	20.0	16.0	19.3	11.3	10.0	10.7	4.0	3.3	4.7
継続無子家族男性	73.3	50.7	32.0	32.0	31.3	14.7	18.7	17.3	16.0	15.3	16.0	6.0	0.7	4.7	2.7
継続一人っ子家族男性	62.7	62.0	30.7	40.0	11.3	32.7	8.7	7.3	2.0	6.0	8.0	2.0	0.7	2.0	8.0
複数子家族男性	66.7	59.3	27.3	32.7	13.3	40.0	10.0	11.3	8.0	8.7	7.3	2.0	3.3	4.0	8.0
継続独身女性	70.0	44.0	46.7	42.7	34.7	16.7	18.7	12.0	20.7	12.0	14.0	6.7	1.3	2.0	6.7
継続無子家族女性	68.7	43.3	51.3	34.7	34.7	13.3	25.3	14.0	22.0	15.3	14.0	6.7	2.0	2.7	2.0
継続一人っ子家族女性	65.3	58.7	32.7	40.0	11.3	34.0	9.3	7.3	4.0	4.7	3.3	1.3	2.0	2.0	7.3
複数子家族女性	59.3	60.7	26.7	37.3	12.0	42.7	6.0	7.3	7.3	2.7	4.0	1.3	1.3	5.3	6.0

#### 4-4. 理想の子ども数と今後子どもをもうける意思(Q21-1.2)

理想の子ども数は、【複数子家族】以外ほどの層でも「2人」と答えた人が最も多い。

今後、子どもをもうけたい意向のある人は、【継続独身】の男性と【継続無子家族】の男性では半数を超えているが、【継続一人っ子家族】の男性では19.3%に留まる。

【複数子家族】の男性では、更に少なく1割にも満たない。

子どもをもうける意思のある人の割合は、女性では更に低く、最も高い【継続独身】の女性でも半数弱、【継続無子家族】では3人に1人、【継続一人っ子家族】では5人に1人程度である。

【複数子家族】では更に子どもをもうけるつमोरりの女性は40人に1人に過ぎない。

図表4-4. 理想の子ども数と今後子どもを持ちたい意思(各単数回答)(基数:全体)

各グループ N=150	理想の子ども数					今後 子どもを もうける 意向を 率	今後もうける 予定の子ども数		平均子ども数		
	1 人	2 人	3 人	4 人 以上	も子 うど けも は た く な い		1 人	2 人 以上	理 想 の 人 数	持 つ つ も り の 人 数	理 想 と 持 つ つ も り の 差
	%	%	%	%	%		%	%	人	人	人
継続独身男性	4.7	50.7	26.0	3.4	15.3	56.0	6.0	50.0	1.98	1.33	0.65
継続無子 家族男性	4.7	60.7	24.7	0.0	10.0	62.7	27.3	35.4	2.00	1.03	0.97
継続一人っ子 家族男性	6.0	64.0	28.0	1.3	0.7	19.3	18.7	0.7	2.23	1.20	1.03
複数子 家族男性	0.0	33.3	57.3	8.7	0.7	5.3	4.7	0.7	2.75	2.41	0.34
継続独身女性	5.3	49.3	32.7	3.3	9.3	48.7	18.0	30.7	2.15	1.11	1.04
継続無子 家族女性	6.0	51.3	21.3	2.7	18.7	32.7	16.7	16.0	1.83	0.49	1.34
継続一人っ子 家族女性	5.3	48.7	40.7	4.6	0.0	20.7	19.3	1.3	2.46	1.22	1.24
複数子 家族女性	0.0	27.3	64.7	8.0	0.0	2.7	2.7	0.0	2.81	2.45	0.36

#### 4-5. 持つ予定の子ども数が理想より少ない理由(Q22-SQ)

【継続独身】の理由は「結婚する気がない」が3割前後。その他の理由では、男性は「自分の人生を生きるのに精一杯」「子どもを育てる自身がない」などが多い。女性の場合は「高年齢出産」が最大の理由。「健康・体力に自信がない」も多く、年齢要因が大きい。

【継続無子家族】では「子どもができない」が最大の理由。これに加え「高年齢出産」も大きな理由になっている。「経済的負担」はさほど大きな理由にはなっていない。女性の場合は「子どもを育てる自信がない」「子どもが好きでない」なども挙げられている。

【継続一人っ子家族】も【継続無子家族】と同様「高年齢出産」「子どもができない」が主たる理由。違いは「子どもができない」の比率が【継続無子家族】ほど高くなく、ことおよび「経済的負担」が【継続無子家族】に比べ大きいことである。少数ながら、「配偶者との性関係がなくなった」ことも理由として挙げられている。

【複数子家族】の最大の阻害要因は「経済的負担」である。「高年齢出産」「健康・体力に自信がない」といった加齢要因も他層同様に挙げられている。

特徴的なのは、「家が狭い」「時間のゆとりがなくなる」などが相対的に多いことである。

図表4-5. 持つ予定の子ども数が理想より少ない理由(複数回答)(基数:持つ子ども数が理想より少ない人)(%)

	継続 独身 男性	継続 無子 家族 男性	継続 一人 っ子 家族 男性	複数 子 家族 男性	継続 独身 女性	継続 無子 家族 女性	継続 一人 っ子 家族 女性	複数 子 家族 女性
n=	75	100	123	57	103	132	129	64
経済的負担が大きいから	29.3	23.0	41.5	73.7	26.2	22.7	39.5	62.5
家が狭いから	4.0	2.0	7.3	15.8	1.9	1.5	6.2	7.8
高年齢出産になるから	12.0	47.0	37.4	47.4	56.3	46.2	44.2	40.6
健康・体力に自信がないから	16.0	15.0	15.4	14.0	26.2	21.2	34.9	37.5
末子が定年退職までに成人して欲しいから	4.0	6.0	13.0	7.0	1.9	2.3	5.4	6.3
心理的負担が大きいから	13.3	9.0	10.6	15.8	9.7	13.6	7.0	14.1
時間のゆとりがなくなるから	14.7	9.0	5.7	17.5	5.8	8.3	12.4	20.3
他にやりたいことがあるから	4.0	5.0	1.6	3.5	6.8	6.1	3.1	3.1
将来が子どもにとってよい環境とは思えない	16.0	15.0	9.8	1.8	13.6	18.9	6.2	4.7
自分の人生を生きるのに精一杯だから	25.3	5.0	3.3	0.0	10.7	13.6	1.6	3.1
配偶者の育児への協力が期待できないから	0.0	3.0	1.6	0.0	0.0	4.5	10.1	10.9
配偶者との性関係がなくなったから	0.0	5.0	10.6	0.0	0.0	4.5	11.6	3.1
子どもを育てる自信がないから	20.0	7.0	2.4	1.8	14.6	17.4	4.7	6.3
もともと子どもが好きではないから	8.0	0.0	0.8	0.0	3.9	11.4	2.3	1.6
子どもを虐待してまいそうだから	4.0	1.0	1.6	0.0	2.9	2.3	0.8	0.0
自分の仕事に差しつかえるから	2.7	2.0	2.4	3.5	1.0	3.0	1.6	10.9
近くに保育所や、預けられる親がいないから	0.0	0.0	2.4	3.5	1.9	2.3	3.1	3.1
勤め先などが出産・育児に対して理解がない	1.3	2.0	0.8	0.0	1.0	0.8	0.8	3.1
子どもができないから	4.0	52.0	21.1	0.0	1.9	53.8	34.9	0.0
結婚する気がないから	28.0	0.0	0.0	0.0	32.0	0.0	0.0	0.0
夫婦2人だけの生活を楽みたいから	6.7	11.0	0.0	3.5	4.9	10.6	0.0	0.0